

# 「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

## 釜石市教育委員会「釜石市放課後子ども教室事業」の成果と課題(岩手県釜石市)

### 取組事業

釜石市放課後子ども教室事業

### 活動実施場所

民間団体施設、学校内施設、公民館、復興公営住宅集会室、仮設住宅集会室

### 取組概要

#### 【放課後子ども教室事業】

「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の委託を受けて、放課後等における安心・安全な子どもの居場所を設けるほか、地域住民等の参画を得て様々な学習活動や交流機会を提供する。

◎実施箇所：市内6教室（7小学校区）

（教室名／対象小学校区／実施場所／基本実施日）

- ①ばしょまえ交流館／釜石小学校区／民間団体施設／週2回
- ②ふたば放課後子ども教室／双葉小学校区／学校内施設／週1回
- ③小佐野放課後ひろば／小佐野小学校区／公民館／週2回
- ④MOSICA甲子／甲子小学校区／仮設住宅集会室／週1回
- ⑤MOSICA平田／平田小学校区／復興公営住宅集会室／週1回
- ⑥鶉住居子どもひろば／鶉住居小・栗林小学校区／仮設住宅集会室／週3回



「電気のみみつ」講座(東北電力協力)



「体を使ってあそぼう！」

### 事業成果

#### 【放課後子ども教室事業】

- ・公園等にも仮設住宅が建設され子どもの遊び場所が少ない現状の中、子ども教室が拠り所の一つとして機能を果たしている。
- ・仮設住宅や復興公営住宅の集会室でも実施し、新たなコミュニティ形成や活性化が課題としてある地域にとって課題解決のための有効な一策となっている。
- ・子ども教室で宿題を済ませることの定着が図られていることもあり、帰宅後の有効な時間の使い方に寄与している。
- ・特定の学習プログラムを実施すると参加人数は増加する傾向にあり、新たな知識等を会得することはもとより異年齢交流の一助となっている。

◎一例：小佐野放課後ひろば 通常時と学習プログラム等実施時の参加人数比（H28.4～11月）  
通常時：1回あたり14人 学習プログラム等実施時：1回あたり23人

### 課題や今後の取組

- ・安全管理や学習サポートに携わる活動者は若干増えているものの、実施箇所により差があるため確保のための仕掛けが継続して求められる。
- ・上記活動者の安全管理等に関する学びの機会や情報交流機会について、近場での開催が求められる。
- ・学校生活外での子どもの様子を把握することができるものとして、基本趣旨の理解も含め学校関係者の一層の協力が求められる。